

ブロードバンドサービスに関するユニ
バーサルサービス制度におけるコス
ト算定に関する研究会(第5回)会合

「交付金算定」検討の視点に対する意見

日本ケーブルテレビ連盟

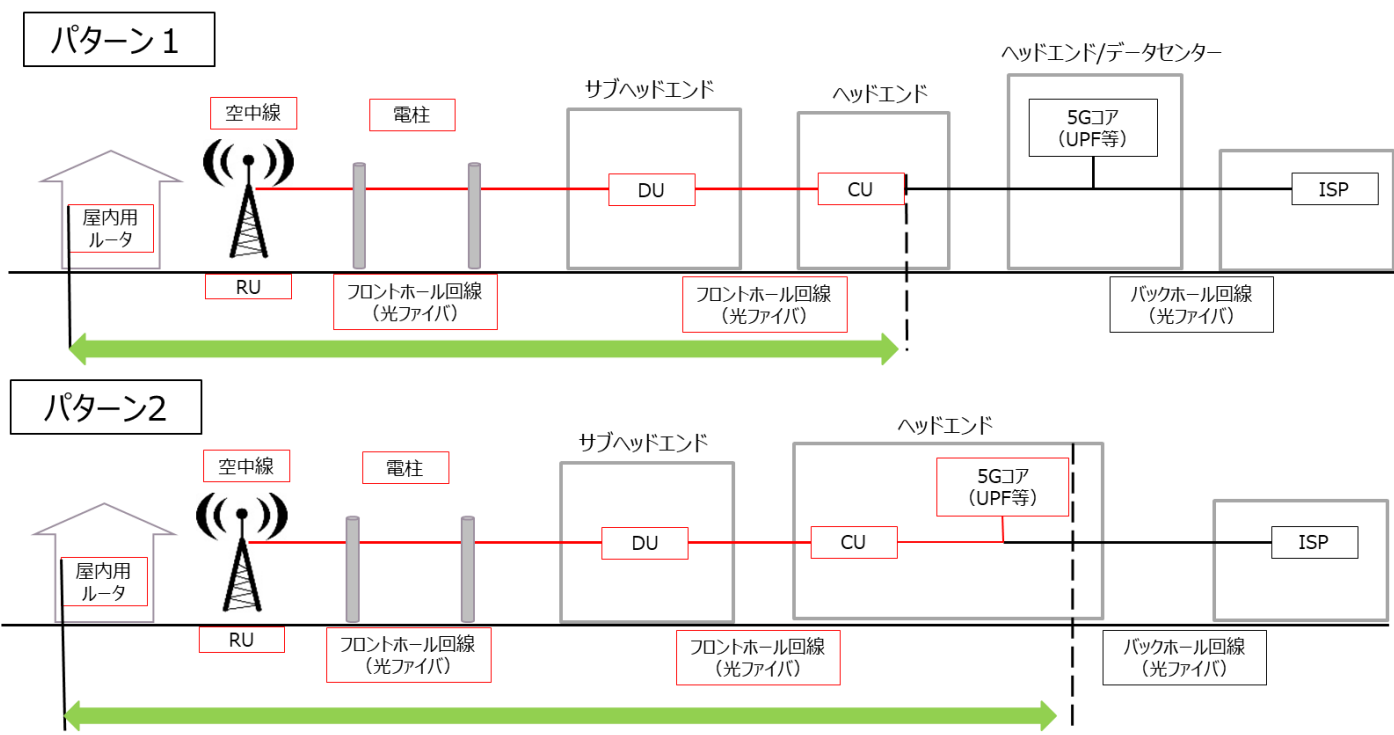
2023年12月19日

検討の視点 1

設備対象範囲

意見

FTTH、HFC、ワイヤレス固定ブロードバンド専用型ともに、設備対象範囲は、事務局ご提案に賛同します。
 但し、ワイヤレス固定ブロードバンド専用型につきましては、コア設備を他地域と共用せずに、サービスを提供するケースも想定されるため（パターン2）、その場合はコア設備を含むことが妥当と思料します。



検討の視点6

その他考えられる事項

第5回WG 検討事項2. 共通費の配賦基準に関して

検討事項2.考え方(案)二

12/12 第5回WG 事務局資料

放送役務と共用する場合、アクセス回線部門において一芯又は二芯で提供しているケースが存在するところ、二芯であれば、芯線数で費用を配賦し、第二号基礎的電気通信役務に係る部分を、今回の交付金の算定対象とすることが適当であるといえるのではないか。一方で、一芯で放送役務及び通信役務を提供している場合には、上述一.の基準にしたがって、通信役務に係る部分のコストのみを標準判定式の算定対象とすることが適当ではないか。当該基準について具体化すれば、例えば「役務別の支出額比」、「波長数」、「トラヒック比」や「帯域比」などが考えられるところ、いかに考えるか。現在総務省で開催中の「ブロードバンドサービスに関するユニバーサルサービス制度におけるコスト算定に関する研究会」（以下「コスト算定研究会」という。）において、この点、まずFTTHの配賦基準について議論し、その後、その結論をベースにHFCにも適用することの可否について検討を深め、そうしたコスト算定研究会の検討状況も踏まえて、年明けのこのワーキンググループの答申案の議論までに何らかの基準又は方向性を同案に盛り込んではいかがか

第5回WG 検討事項2. 共通費の配賦基準に関して

意見

- ・「検討事項2.考え方 二.」において示されているFTTHに関する配賦に関して、本制度を効率よく進めるため、以下の通り、考えます。
 - ・二芯の場合は、“芯線数で費用を配賦する”に賛同します。
 - ・一芯の場合は、“波長数による配賦”が妥当ではないかと考えます。ただし、その妥当性についてはしっかり議論していただく必要があると考えます。
- ・今後、IP放送（マルチキャスト）方式による放送サービスの提供方法が進む場合、IP放送方式だけを交付金算定の対象にするのは、RF方式との関係で不公平となると考えます。逆もまた然りです。両方式の配賦の在り方に関しては、継続検討事項としてはどうでしょうか？
- ・HFCについては、第3回WGにて、当連盟より配賦が難しいとの考えを示しました。
- ・HFCに関して、FTTHへの移行が進んでいる中、FTTHとHFCの放送と通信の配賦割合の差により、その結果に大きく差が生じることもよくないと考えます。
- ・故に、HFCの放送と通信の配賦割合について、「検討事項2.考え方二.」に示された通り、“まずFTTHの配賦基準について議論し、その後、その結論をベースにHFCにも適用する”ことに賛同します。HFCは配賦が難しいため、作業の効率性も鑑みて、FTTHと同じ配賦割合を採用することが良いかと考えます。